

日本共産党
久喜市議団

市民の暮らし優先の市政に全力！

久喜宮代衛生組合の視察研修

寄居(埼玉)の資源循環型工場と草津(群馬)の最終処分場を久喜宮代衛生組合議会で7月9日、10日行政視察に行っていました。

1日目は埼玉県の彩の国資源循環型工場(オリックス)、最新のガス改良施設で、廃油、廃プラ、汚泥など2000度で完全に焼却できるというものです。ダイオキシンもほとんどゼロというもので、全国に7基しかなく、数百億円の費用が掛かるのが難点です。

草津のウエストパークの最終処分場は久喜宮代衛生組合の産業廃棄物の受け入れ場所。現在3期の造成に入っています。環境に配慮しています。減量化に向けての努力がさらに必要と感じてきました。

木村とものり

あゆみの郷がオープン



ありがとう趣味の家



これまで「授産施設」「障害者デイケア施設」として長い間利用されてきた『趣味の家』が新たに「あゆみの郷」としてスタートすることになりました。7月30日にその開所式が行われました。理由は、これまでの施設の広さや機能などが障害者自立支援法を満たさないからです。これからは広く、作業もしやすくなります。市の直営ではなく、指定管理という問題もありますが、利用者や保護者、職員が安心して使える施設としての再出発です。党議員団は、関係者とも共同していっそうの充実に向けて力を尽くします。

群馬県草津にある最終処分場
草津ウエストパークセンター存続を求める署名を前に
県の病院局経営管理課と懇談

県立小児医療センター

現地存続を求めて署名提出

7月10日、埼玉県議会議事堂内で「小児医療センター現地存続を求める患者家族の会」は、埼玉県に対し、センター存続を求める署名2万4550筆を提出、合計で7万7952筆に上ります。

患者家族の方から、「私の子は30分置きに痰の吸引が必要で、コンビニやガソリンスタンドへ飛び込み駐車し吸引していく。新都心への通院調査を患者と県当局がともに乗車し、実態を見てほしい」と涙ながらの訴えがありました。県は「状況を教えていただければ把握できる」との回答で同行は拒みしました。

新聞報道の真意は

7月7日付読売新聞で報道された「小児医療センター全機能移転、県が方針固める」の記事について、県当局に説明を求め、県の病院局経営管理課副課長は、「新しい方針を固めたのではなく、県立小児は新都心に全機能移転し、それに加えて現地に必要な病院機能を検討する」ということで、これまでのスタンスと何ら変更はないと答えました。

アンケート結果を公表

19日、県はアンケートの結果を公表。患者さんが受けている診療科は平均で2・49科、中には一人で13の診療科を受診している方もいました。吸引器は103人が使用。通院が最も心配との結果がでています。

石田としはる

福祉健康常任委員会
調査

『とねっと』について

福祉健康常任委員会が7月17日、利根保健医療圏地域医療ネットワーク「とねっと」の所管事務調査を行いました。これは、かかりつけ医と中核病院が役割分担し、連携して医療情報を「かかりつけ医カード」で共有し、見守るシステムです。薬の処方、検査結果の共有、救急時の迅速対応などの利点があります。しかし、まだ久喜市の参加者数は1262名です。そこには医療機関の参加数の少なさ(久喜市内は19の医療機関)に起因があるようです。

今回の事業は県の補助金100%で進めています。審議する中でいくつかの問題点が出てきました。基金が平成25年度で終了予定であり、今後の予算の見通しがはつきりしないこと。参加医療機関が増えれば、負担が診療所などに出てくる可能性があること。かかりつけ医からの情報入力には難しいこと。自ら情報入力をしなければならず、高齢者にとつてかなり負担になることなどです。今後福祉健康常任委員会では調査・学習を続けることとしました。

渡辺まさよ

さよなら原発大集会に17万人

私たち人類は、使用済み核燃料を自然に戻す知恵をまだ持っていません。原発にさようならをし、自然エネルギーへの転換をすべきです。政治が転換を決意するまで頑張りましょう。 石田としはる

17万人の国民の怒りが集結した集会に家族4人で参加しました。6歳の息子も新宿の街中で「原発いらない、命を守れ！」と叫び、歩き続けました。「野田政権！この声をしっかり聞け！」 渡辺まさよ



メイン会場につめかけた参加者。舞台には瀬戸内寂聴さん落合恵子さんなどの姿も見える。

この熱気はまさしく原発再稼働に対する怒りであり、カネに群がる連中への冷静な反撃である。核も原発も、そして米軍基地も同様に、日本人の利益とは相入れないものである。これは、いのちと国土を守る戦いであると思う。 杉野おさむ

7月16日に東京・代々木公園で開かれた「さようなら原発10万人集会」に地域の皆さんと参加しました。17万人が参加する歴史的な集会に参加できた喜びと多くの国民の声で必ず原発ゼロを実現できるという熱気をデモ行進しながら実感しました。 木村ともり

「核も原発もいらない！」 平和行進、各地域で元気に取り組み



7月28日、鷺宮総合支所の4階において現在、JR東鷺宮駅の西口にある市営青空駐輪場を、東口の有料のセンター方式にするという「工事説明会」が開かれました。

多くの利用者や地元西大輪の市民などは主催の市側とセンター関係者に疑問や意見を積極的に出しました。例えば、「無料から有料になるのは大変だ。駐輪場代金は会社から出ない。歩かざるを得なくなる」とか「なぜ2億円もかけてまでしてやる必要があるのか」「出入り口が2箇所では通勤通学のラッシュ時に混雑してしまう」など切実な声が特徴的でした。

市民が提案もしながら出す疑問に対し、市の答弁は「11月着工の方針は変更しない」の繰り返しが多く参加者は「これでは建設ありき」で「何のために説明会を開いているのか、意味がないではないか」と最後には収拾不能の事態になりました。傍聴のつもりでしたがあまりにひどいので「利用者・住民の声をふまえて再度説明をていねいにするよう」発言要望しました。 杉野

「東鷺宮西口の無料駐輪場が無くなる？
市は聞く耳持たないのか！」説明会は大紛糾



核兵器や危険なオスプレイ。一日も早くこの地球上からなくし、さようならを。栗橋の副支所長、富澤善夫さんから、激励のあいさつをいただき、総合支所を起点に、青果市場までを元気に行進。



各地域の行進です



今年の久喜地域の平和行進は7月11日、午後2時から市役所から久喜駅経由で中央公民館前まで炎天下のもと行いました。今年は原水爆禁止の訴えの他、原発再稼働を許すな、オスプレイ配備反対などのシュプレヒコールを市民にアピールしました。